

# 第1回学校動物飼育支援対策検討委員会議事概要 (小動物臨床部会個別委員会)

社団法人 日本獣医師会

日 時 平成21年10月14日(水) 13:30 ~ 16:30

場 所 日本獣医師会・会議室

出席者

- 【委員】 桑原保光 群馬県獣医師会(桑原動物病院院長)  
近藤信雄 岐阜県獣医師会会長  
須藤正之 滋賀県獣医師会(須藤獣医科病院院長)  
處 愛美 福岡県獣医師会(ところ動物病院院長)  
中川美穂子 東京都獣医師会理事  
宮川 保 新潟県獣医師会理事
- 【文部科学省】 菊池史晃 文部科学省初等中等教育局教育課程課企画調査係係長
- 【本 会】 山根義久(会長)、中川秀樹(副会長)、細井戸大成(小動物臨床部会長)  
大森伸男(専務理事)

議 事

- 1 職域別部会の運営等(説明)
- 2 委員長・副委員長の選任(協議)
- 3 日本獣医師会による学校における動物飼育に対する獣医師・獣医師会の支援活動(学校飼育動物活動)の推進に関する取り組みの経過
- 4 前期委員会報告の取りまとめと対応の経過等(説明)
- 5 今期委員会の検討テーマ等(協議)
- 6 その他

会議概要

- (1) 会議の冒頭、中川副会長より挨拶があった。その概要は以下のとおりである。
- ア 6月の総会において3期目の山根会長体制が始まったが、平成25年までの公益認定に向けての対応が、各地方獣医師会共通の課題となっている。公益認定を取る上で、どんなことが国民に対してできるかということの一つに動物介在による公益活動があり、学校飼育動物における活動はその中に含まれる。
- イ 日本獣医師会は平成10年から12年間に渡ってこの課題に取り組んでおり、それだけの成果を上げてきている。委員の方々は皆様エキスパートなので、地方会の指針となり、実際の活動に役立ち、また現在の問題も解決できるような提言をよろしく願いたい。
- (2) 続いて委員と出席者による自己紹介が行われた。

## 1 職域別部会等の運営等

- (1) 日本獣医師会組織構図
- (2) 日本獣医師会（部会委員会）の構成
- (3) 日本獣医師会 職域別部会運営規定

事務局から、資料に基づき、職域別部会制の役割、委員会の組織上の位置づけ（小動物臨床部会の個別委員会としての位置づけ）、運営規程等の説明が行われた。

## 2 委員長・副委員長の選任

委員長に近藤信雄委員、副委員長に桑原保光委員・中川美穂子委員が全員一致で選任された。

## 3 日本獣医師会による学校における動物飼育に対する獣医師・獣医師会の支援活動（学校飼育動物活動）の推進に関する取り組みの経過

事務局から、資料に基づき、本会による学校における動物飼育に対する支援活動の推進に関する取り組みの経過等について説明が行なわれた。

委員から報告書やハンドブックの配布状況について質問があり、成果物はすべてHPからダウンロードできる旨説明された。

## 4 前期委員会報告の取りまとめ結果と対応の経過等

- (1) 事務局から、資料に基づき、前期委員会報告の取りまとめ結果と報告の提出を受けての対応の経過等について説明が行なわれた。
- (2) 特に、動物介在諸活動における学校動物飼育の定義や、獣医師の果たす役割等について、前期委員会における取りまとめの内容が説明された。
- (3) また、その説明を受けて、以下のような意見交換がされた。

### ア 学校動物飼育支援対策という名称について

- (ア) 情報を受け取る側（地方会等）の理解を得やすいように統一していくべきである。
- (イ) 支援という言葉のイメージ（特別支援学級、上から目線等）を考慮すべきである。
- (ウ) 活動している人を後押しする名称が良いと思われるが、当面、会の名称はこのままにしておき、取りまとめの中で呼称を検討していく

### イ 「学校」の定義

- (ア) 学校とは小・中・高等学校を指すため、幼稚園を含む場合「学校（園）」とするべきである。
- (イ) この委員会の名称は「学校」とするが、おおまかに園等も含んで検討する

### ウ 学校飼育動物の所有権

- (ア) 飼育者責任を明確にするためにも、動物の所有権はを明確にすべきである。
- (イ) 学校等の代表者である校長を所有者とするのが適当である。

## エ その他

- (ア) 支援対策を進めるにあたって、相手（学校側）がテーブルに着くことは大事だが、つかなくても何ができるかを検討すべきである。
- (イ) 学校飼育動物は苦手だという会員獣医師もケアしながら活動を推進すべきである。
- (ウ) 学校側からの獣医師をに対する信頼を醸成し得るよう、教育委員会への提言ガイドラインが必要である。

## 5 今期委員会の検討内容

- (1) 近藤委員長から、資料に基づき、部会委員会の検討テーマと学校動物飼育支援対策検討委員会協議課題（案）について説明が行われた。

その説明を受けて、以下のような意見交換がされた。

### ア 基本的な方針

地方獣医師会が学校動物飼育支援対策活動を公益事業として実践できるように肉付けして標準化を目指す。

### イ 今後の展開

- (ア) 「獣医師等の専門家による推進・支援体制の検討」、「獣医師会による学校における動物飼育の取り組みに対する指導・支援活動（学校動物飼育対策事業）の推進状況の調査」、「学校教育課程における動物飼育の適正実施の普及啓発対策」については、実働部隊がしっかり活動できるように早急にまとめる。
- (イ) 「指導者に対する技術研修・指導」については、時間をかけてまとめる。
- (ウ) 調査は結論が出た段階で、セミナー、シンポジウム等を開催して、逐次現場に反省させる（23年2月11,12,13日の岐阜における学会で発表することも考慮）。

### ウ 学校獣医師制度について

国民的な要望がないと難しいが、関係各所及び学校への提言は継続して実施する。

- (2) 意見交換後、近藤委員長から、協議課題における担当委員の割り振りが行われ、了承された。

### ア 獣医師等の専門家による推進・支援体制の検討

主担当 宮川委員 副担当 桑原副委員長・中川副委員長

### イ 指導者に対する技術研修・指導

主担当 宮川委員 副担当 中川副委員長・桑原副委員長

### ウ 獣医師会による学校における動物飼育の取り組みに対する指導・支援活動（学校動物飼育対策事業）の推進状況の調査

主担当 處委員 副担当 桑原副委員長・中川副委員長

### エ 学校教育課程における動物飼育の適正実施の普及啓発など

主担当 須藤委員 副担当 中川副委員長・桑原副委員長

## 6 その他

細井戸小動物臨床部会長からの提案で、学校飼育を経験した子供たちが成人した後の状況について情報交換が行なわれた。

統一的な調査が等が行われた事例についての情報はなかったが、動物と触れ合うことで獣医を志した児童の例がいくつか挙げられた。

### まとめ

最後に、山根会長より、学校における動物飼育支援活動については獣医師会として積極的に取り組むべきであると考えている旨の挨拶があった。

第1回委員会は、近藤委員長により以下のとおりとりまとめられた。

- (1) 次回の委員会では、それぞれ担当された課題について素案を提出していただき、その内容について検討を行う。最終的には、1年を目途に取りまとめを行ないたい。
- (2) 次回委員会は来年、各担当者から素案を提出していただいた後に開催する。